

# 県民ひろば

2023年10月23日

No.66

発行/県民クラブ  
連絡先/大分県議会  
大分市大手町 ☎(097)536-1111(代)

<https://kenmin-club.com>



## 県民の声を幅広く県政に

県民クラブ 成迫 健児(佐伯市)



私は今年度、広報委員会の副委員長を仰せつかりました。大分県議会では広範な県議会の活動を県民にわかりやすくお知らせし、議会を身近に感じて頂くために広報委員会を設置し、様々な情報をお伝えする広報・広聴事業を行っています。

広報委員会の活動は多岐にわたり、①テレビや広報紙・SNS等を通じた広報活動、②県内小・中学校への議員出前講座、③親子で参加できる夏休み子ども議会見学、④各地域で県民と直接意見交換を行う出前県議会、⑤若者の意見等を広く聴取し意見交換を行うユースモニター制度などがあります。

8月に開催された夏休み子ども議会見学では、広報委員が子どもたちをエスコートして会派控室や会議室を案内、議会の仕組みなどを説明しました。最後に本会議場で、子どもたちに議席に着いて質問をしてもらい、議員が執行部席から答弁をするという機会をつくりました。

令和5年度より本格実施され、10月に開催されたユースモニター制度では、18〜30歳の社会人や大学生と直接向き合い様々な意見を頂きました。大学生の参加者は県外出身者が多く、大分県で生活をする中で政治に関心をもたずにはいられないとの発言もありました。現在IT企業で活躍している方から「EBPM(証拠)に基づく政策」への議会における対応について質問を受けました。今後、大分県はDXの推進に伴いデータ収集と利活用の環境整備に力を入れ

ながら政策の効率的な立案を行うっていくこととなっています。ほとんどの参加者はこれまで政治に興味がなかったと言われましたが、意見交換をする専門的な知識や地域への課題認識がとて高く、県政にとって大切な声を聞くことができました。

広報委員会として県議会の活動を広く伝えていくことはもちろんですが、県民の皆さんに政治に関心を持って頂くための努力も必要です。県内の投票率が下がり続ける中で、10代、20代の投票率は40%前後と、ここ近年ではかなり低い状況。理由はいろいろあると思います。物価の上昇や増税、社会保障負担など生活は厳しくなるばかりなのに、政治は変わる気配がなく、政治家に期待感を持ってない思いも強いかも知れません。それで「どうせ投票に行っても何も変わらない」といった考えに行き着くのだと思います。県民の皆さんと一番身近な私たち議員が、皆さん一人一人の声を政治に反映させ、地域を変えていけることを率先して証明して行かなければ、その意識を変えられないと思っています。

県民クラブは定期的に「地域課題研究会」を実施しており、県内の事業所への調査や子育て世代との意見交換会など様々な活動を行っています。こういった活動もより加速させながら、皆さんの声を県政に届け、身近な生活が改善できるように努力してまいります。一つ一つの積み重ねが多くの方々の政治への関心に繋がります、より良い未来に繋がる県政とするご意見をいただけるようになることを確信しています。

『県民の声を幅広く県政に』反映していくよう全力疾走で取り組んでいきます。

## 一般質問



もりなが のぶゆき  
守永 信幸  
(大分市)

### 高齢社会の 公共交通は！

#### 公共交通を巡る諸課題

高齢社会が深刻となる中で、高齢者の交通事故抑止策の一つとして県は運転免許の返納を進めている。そのような中で、運転免許を持たない方々が、行きたい所へ安心して行ける移動手段を確保するために、県下全域で鉄道の駅をハブとした地域公共交通のあり方を検討すべき。特に大分市内では人口増加傾向にある大分市の東部と中心市街地を結ぶ公共交通の充実を訴え、知事に見解を問いかけた。

佐藤知事の答弁は、「公共交通は豊かな暮らしの実現や社会経済活動に不可欠であるが、人口の減少やライフスタイルの変化等に伴い、多くの課題を抱えている。県は持続可能な地域の公共交通網づくりに向け、地域公共交通計画を策定してきた。移動弱者に寄り添う公共交通への

転換を課題の1つに掲げ、高齢者等の通院・買い物需要に対応した路線やダイヤの改善等を検討していく。また、乗合タクシーや渋滞解消、路線バス維持のための人材確保などに取り組む」とのこと。

大分駅以南の鉄道の複線化や豊肥線下郡地区の新駅などについては、「日豊本線高速・複線化大分県期成同盟会」が大分駅以南の全線複線化の早期実現を粘り強く働きかける。また、下郡地区の新駅設置は、市長時代から課題と捉えており、関係者の検討状況を踏まえ、必要に応じて助言などの協力をする」との答弁。

SSSによる駅の無人化  
7月1日から大分市内の5つの駅で、新たにスマート・サポート・ステーション(SSS)の運用が始まった。先行して無人化された3つの駅を含め、乗降者数も多く、県としてJR駅の無人化に関する安全対策についてどう取り組むのかを企画振興部長に質した。

部長から、「大分市内の5駅に新たにSSSが導入された際に、駅の無人化に関するガイドライ

ンの遵守と併せて、IoT等を活用した、より高性能な安全装置等の研究を進めるよう働きかけた。今後とも引き続き利用者の声に耳を傾け、とりわけ障がい者や高齢者に配慮した安全・安心な輸送サービスの提供を行うよう、JR九州に対し要望・提言する」との答弁があった。

万が一のケースは、頻発するわけではないが、その時に守れる命を守るために必要な要員として公共交通事業者と行政との連携で、体制を確立すべき。

#### 陸自大分分屯地の火薬庫

大分市鷺野にある陸上自衛隊大分分屯地に新しく火薬庫が2棟設置され、スタンド・オフ・ミサイルが保管される計画が進められている。更に湯布院駐屯地に地对艦ミサイル連隊が発足する計画も公表された。鷺野地域は数戸団地をはじめ住宅密集地であり、大分大学など若者も集中して居住する地域。スタンド・オフ・ミサイルが格納されると、有事に至った途端に先制攻撃の標的となりかねない。地域住民に対して具体的な説明がなされず、住民は不安を抱えている。県に権限がないとはいえ、

国に対して意見すべきではないかと質問した。

県防災局長からは、「県民の不安などに対しては、国が責任を持つて、地元で丁寧な説明を行うとともに、安全対策などに万全を期して頂きたいと考える。県としても、国の動きや工事の進捗などを注視し、大分市と情報共有や連絡を密にししながら、県民の不安解消と安全確保に取り組む」との答弁。



みたらい ひろふみ  
御手洗 朋宏  
(大分市)

### 県民の「声」を届ける!!

県議会での初質問でした。抜粋し紹介します。

#### (質問) 教員不足への対応について

必要な人員を配置しないまま働かせ続けていることこそが「学校現場はブラックだ」と言われる大きな要因だ。すべての教職員が生き生きと働ける職場環境にしていくことが、子どもたち一人ひとりの豊かな学びを保障す

ることであり、保護者や地域の皆さんから信頼される学校づくりにつながる。教職員定数が満たされていないことは、憲法で定められた「教育の機会均等」に反する、大変憂慮すべき事態だ。県は「教育県大分」の創造を掲げているが、学校現場の実態をどう認識しているのか。「人員不足」の具体的な解決策、学校現場の「働き方改革」についてどう考えているのか。

#### (教育長答弁)

教員不足は、全国的な課題であり、本県においても厳しい状況。また、依然として長時間勤務者が存在することも課題と考える。教員採用試験の見直し等による受験者の確保や、再任用の促進、教員免許状所有者で教職に就いていない方を対象とした説明会を新たに開催することで、臨時講師等の掘り起こしを行っている。国は、働き方改革に関する緊急提言を取りまとめ、来春、教員の勤務制度や処遇改善等に、一定の方向性を示す予定。今後、国の動向を注視し、教員不足の解消や、働き方改革に向け、職場環境の充実を図っていききたい。

〔質問〕放課後等デイサービスについて

放課後等デイサービス（学校に就学している障がい児に、授業の終了後または休業日に、生活能力の向上のために必要な訓練、社会との交流の促進などの発達支援を供与するサービス）事業所を利用する特別支援学級在籍児童も多く、これまで空き店舗等だった建物が事業所になっているのをよく見かけるようになった。「障がいのある人もない人も心豊かに暮らせる大分県づくり条例」前文にある「障がいのある人が選択の機会を確保されつつ必要な支援を受けて地域社会の中で安心して心豊かに暮らせる日」の実現のためには、組織横断的な取り組みでインクルーシブを実現する施設や制度が必要だ。放課後等デイサービスをどのように充実させていくのか。

〔福祉保健部長答弁〕

県内の放課後等デイサービス事業所は、ここ5年間で倍増し、254事業所、2,965人の利用定員となっている。約3割の事業所では、夏休みや地域でのイベント等の際に、放課後児童クラブや児童館との交流を行っている。今後も、放課後児童ク

ラブ等とも連携し、放課後等デイサービスの充実に努め、子どもたちの健やかな成長を支えていく。

〔質問〕大分市東部地域の渋滞対策について

大分市東部地区は人口増加などにより、各所で交通渋滞が発生している。乙津川と大野川という2つの川にかかる鶴崎橋をはじめ、乙津橋、高田橋、川添橋周辺の交通渋滞は、地域住民の悩みの種となっている。国道197号の鶴崎幅幅が進んでいるが、それだけでは交通渋滞の解消には不十分だ。4つの橋周辺の抜本的な渋滞解消への取り組みを進めるべきだ。

〔土木建築部長答弁〕

東部地域の渋滞対策を重点課題とし、大野川大橋の無料化、県道坂ノ市中戸次線川添バイパスおよび都市計画道路岡臨海線の整備などに取り組んできた。しかし、人口の増加もあり、交通渋滞の解消までには至っていない。現在、国道197号線鶴崎幅幅を実施しており、4つの橋周辺などへの効果も期待される。早期完成に努め、効果を認める。



若山 雅敏 (宇佐市)

一般質問  
県民や地域の願いの実現に向けて

県議会ですべての一般質問で、緊張の中でも県民や地域の願いとして、

- 1 災害対策について（2項目）
- 2 小中学校給食費の保護者負担について
- 3 駅館川地区国営かんがい排水事業について
- 4 教育現場を巡る種課題について（4項目）

以上の質問を行いました。抜粋し紹介します。

〔質問〕災害対策としての流域治水について

防災・減災として治水対策に当たっては、県、市町村など行政だけでなく、流域の住民や地域における事業者など幅広いあらゆる関係者により流域全体で水を軽減させる「流域治水」という考え方が広がってきている。

維持管理の多くを地元地域から要望の多い樋門の改修・自動化や河川の中に設置され

た許可工物管理などについて十分地域と協議・対応しながら多くの関係者と治水を行うべきであり、今後、流域治水対策にどのように取り組んでいくのか。

〔知事答弁〕

県としても主要な河川を流域ごとに8つのエリアに分け、関係機関からなる流域治水協議会を設置し、治水対策の全体像を「流域治水プロジェクト」として定め対策を講じ、毎年、進捗管理や情報共有を行っている。

樋門のゲート化は、現在、県管理施設の70%を終了し今後でも取り進む。許可工物に対しては、適時河川巡視を行い、許可期限の過ぎたものは撤去指導を行うなど、河川の適正管理に努める。今後とも、各関係者一体で流域治水に取り組む。

〔質問〕不登校児童生徒への支援について

不登校児童生徒への支援については、関係者において様々な努力がなされているが、全国の不登校児童生徒数は増加傾向にあり、令和3年度の調査では、小・中学校で約24・5万人、高等

学校を合わせると約30万人となり、過去最高になるなど、喫緊の課題となっており、県内でも同じような状況。

登校支援員活用事業は、「登校支援員」と生徒との関わりにより登校につながる例もあり、高く評価されている。しかし、中学校のみ配置であり、その勤務条件もまだまだ不十分である。「登校支援員」の拡充・増員、勤務条件の整備などが必要と考える。誰一人取り残されない学びの保障に向け、今後どのように取り組んでいくのか。

〔教育長答弁〕

教育機会確保法の趣旨を踏まえ、学校復帰はもとより、社会的自立に向けた多様な学習機会の保障が重要と考えている。令和3年度から中学校に配置している登校支援員の効果が表れており、来年度以降も市町村教委の希望にこたえていきたい。県及び全市町村での教育支援センターの設置や県内6か所での補充学習教室や自宅で学べるICT学習教材を活用した学習支援も行っており、今後も、児童生徒一人ひとりに応じた教育機会の確保を推進していく。



## 県民の安心願う 意見書案は否決に

本会議最終日の10月4日、執行部提出議案とともに議員提出議案の採決が行われました。県民クラブから提出した議案（意見書）は「陸上自衛隊大分分屯地に新設する火薬庫への長距離射程ミサイルの保管に反対する意見書（案）」と「健康保険証の存続を求める意見書（案）」の2本。採決の結果、2つとも賛成少数で否決されました。

### 不安解消のため丁寧な説明を 大型火薬庫の増設

国が昨年12月に策定した「国家防衛戦略」には、自衛隊が有事に組織的な戦いを継続する能力を確保するため5年間をかけて火薬庫を増設する方針が打ち

大分分屯地 位置図



出典：陸上自衛隊 Web サイト (<https://www.mod.go.jp/presiding/1aw/drone/pdf/map/map7-26>) を加工して作成

出典：陸上自衛隊 Web サイト (<https://www.mod.go.jp/gsf/station/wa/oita.html>) を加工して作成

出され、今年度約58億円の予算が計上されています。防衛省は、この中で「反撃能力」を行使するため攻撃目標の射程外から攻撃できる長距離射程ミサイル（スタンド・オフ・ミサイル）を保管できる大型火薬庫を大分市鷲野の陸上自衛隊大分分屯地に新設することを発表しました。

大分分屯地がある地域は、2万世帯4万人が暮らす住宅密集地域であり、小中高校、大学、福祉施設、医療機関などが多数存在しており、ここにスタンド・オフ・ミサイルが保管された場合、有事の際に先制攻撃の目標になることが懸念され住民から不安の声が上がっています。

このことから、私たち県民クラブは、国が地域住民に対して丁寧な説明を行い不安解消を図ること、また不安解消に至らない場合は利用計画の見直しが必要と考え、意見書案を提出したものです。

### 予想される医療現場の混乱

#### 当分の間、健康保険証の存続を

国は、マイナンバーカードと保険証の一体化を進めるため、来年から健康保険証を廃止しマイナンバー保険証に移行するとしています。しかしマイナンバー保険証については、他人の医療情報が閲覧されたり、高齢者施設では暗証番号が管理できないという声が上がったり、様々な問題が噴出しています。

健康保険証を巡る一連の混乱は、命と健康に関する情報を巡る混乱であり、このことは深刻に受け止めるべきです。

このことから、国民の不安を払しょくするため、いったん立ち止まってシステムを総点検し、同時に当分の間の健康保険証の存続を求めたものです。

以上の意見を県議会の総意として国に伝えることは至極当たり前のことだと考えますが、賛成少数で否決されました。残念ですが、これからも諦めることなく粘り強く県民生活の現場の声が届くようチャレンジしていきます。

### 意見書の採択状況 2023年 第3回定例会

意見書	県民クラブ	民主党	自由党	公明党	共産党	日本	志士の会	無所属の会	日本維新の会	可否
私学助成制度の堅持及び拡充強化を求める意見書	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可
陸上自衛隊大分分屯地に新設する火薬庫への長距離射程ミサイルの保管に反対する意見書	○	×	×	○	○	×	○	○	×	否
健康保険証の存続を求める意見書	○	×	×	○	○	○	○	○	×	否
硬膜外自家血注入療法に対する適正な診療上の評価等を求める意見書	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可
サーキュラーエコノミーの実現を目指した施策の推進を求める意見書	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可
下水サーベイランス事業の実施を求める意見書	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可
軽油引取税の課税免除措置の継続等を求める意見書	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可

県議会ホームページにて  
一般質問の中継録画を視聴できます  
<http://www.oita-pref.stream.jfit.co.jp>

県議会HPにて過去分も含め、  
各議員一般質問の全録画を  
視聴できます。

